

2019大阪高齢者集会

生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！

主催：大阪市退職者連合会、大阪市退職者連合会議事会

日時：2019年6月1日(土)

会場：大阪府立総合文化センター（大阪市北区天王寺）
会員料：会員（年会員） 1,000円 / 非会員 1,500円



500名の参加のもと 2018年大阪高齢者集会



2018年デモ行進

大阪退職者連合

1. 2019 大阪高齢者集会開催要綱・次第

(1) 日 時：2019年6月4日（火）受付 12:30～ 開会 13:10

場 所：ドーンセンター

(2) 集会名称 「2019大阪高齢者集会」

(3) スローガン 「生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！」

(4) 次 第

第1部 記念演奏 開会：横川万寿美副会長 13:10

「大正琴の演奏」 13:15～14:15 「大阪なにわの会」

第2部 2019大阪高齢者集会 14:30～15:50

開会の挨拶：司会 横川万寿美副会長

主催者代表挨拶 林晃会長

連合大阪代表挨拶 山崎弦一会長

来賓挨拶：

日本退職者連合代表 林道寛副事務局長

政党代表 （立憲民主党、国民民主党）

基調報告 徳永秀昭事務局長

必勝決議 中井秀禮副会長

集会宣言 上田一男副会長

閉会：司会 横川万寿美副会長

団結ガンバロー 林晃会長

第3部 デモ行進 16:10～17:30

コース：ドーンセンター→京阪東口→土佐堀通り→北浜2丁目交差北折れ
→梅檀の樹橋→中央公会堂前流れ解散

2. 基調報告

(1)はじめに

「生き生きとした社会保障制度の確立」などを求めて、2012年から定例開催をしてきた大阪高齢者集会は、大阪の高齢者運動のひとつの大きな柱として定着し、高齢者のみならず多くの退職者を含む運動として進みつつあります。今後大阪退連は、これらの取り組みを一層強化させます。

少子高齢化が進む中で、社会保障制度は極めて厳しい状況にあります。「安定した社会保障制度の確立」は、高齢者、退職者にとっては、日々の生活に係る問題であり、現役労働者にとっては「将来不安の払拭」のため、政府が最優先に取り組まねばならない国民的な課題です。

「2019 大阪高齢者集会」は、現役労働者と密に連携し、連合大阪が運動の重点に掲げている「クラシノソコアゲ応援団！RENGO キャンペーン第4弾」と連動させて開催します。

(2)「クラシノソコアゲ」キャンペーンと連携し、社会保障制度の充実を

2012年に成立した第2次安倍政権は2度の衆議院解散・総選挙で圧倒的に勝利し、これを機に日本の政治は大きく様変わりしました。安倍一強政治という名の、行政府・政権のトップによる立法府・国会の実質支配の政治といえます。行政情報の秘匿、改ざんをはじめ官僚機構の劣化は、立法・行政の権力分立のゆがみに発していることは明らかとなりました。しかし、行政府トップの独善とそれに無批判に追随、忖度（そんたく）する政治・行政の実態は、すでに橋下大阪知事・市長時代の維新政治にその芽がありました。危機がより深刻なのは、安倍一強政治が国民の一定数に賛意をもって受け入れられていることがあります。

安倍一強政治は、バブル経済崩壊後の失われた10年、20年を取り戻そうと、日本銀行と一緒に国債買い上げや株買いを実施、市場経済に深く関与しています。しかし効果は薄く、むしろ豊かな社会における貧困、格差はいちだんと深まりました。国・地方あわせた累積債務も1,100兆円を超すところまでけています。

一方で労働を取り巻く状況は、外国人技能実習生の問題が解決されないまま、4月から始めた外国人労働者受け入れ制度の課題があり、また就労年齢層（現役世代）においては、パートなどの低賃金労働者、不安定雇用者が増加し、年収200万円以下のワーキングプアと呼ばれる非正規労働者が1000万人を超えていました。これらの層は、被用者保険に加入し

ていない者も多く、退職金もほとんどありません。また不安定雇用、低賃金は「子どもの貧困」として顕在化するとともに、税収不足や社会保険料収入の減少を招き、「財政悪化」「安定しない社会保障制度」の大きな原因にもなっています。

今や国民は、“生を受けて、死に至るまで”、「子育て」「奨学金」「結婚」「医療」「介護」等に代表される困難に、世代を問わず、切れ目なく遭遇しており、その困難を克服していくことを余儀なくされています。そのために“将来に希望が持てる年金、医療などの社会保障制度、雇用の安定、生活できる賃金、子育てなどの福祉制度の確立”を求め、老いも若きも行動を起こしていくことが急務となっています。

連合は、昨年に続き「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン第4弾」を実施しています。これは、世代間を超えて克服していくための運動であり、私たち大阪退連も連合大阪と連携して、この運動を“現退一致の具体的行動の柱”として取り組む決意です。そして若者も高齢者も、安心できる「年金・医療・介護」を中心とした「社会保障制度の確立」を図っていきたいと考えています。

現役世代と退職者世代では、生活基盤に違いがありますが、互いのスタンスを尊重し、「ゆりかごから墓場まで」生活の潤いが感じられる社会の構築をめざし、取り組みを強化していきます。

(3)介護保険及び新総合事業と認知症問題に特化した大阪退連の取り組み

①急速な少子高齢化の進行は、さまざまな課題を含んで進みつつあります。介護問題は「介護を必要とする高齢者」だけの課題でなく、家族を含め「介護を支援する」現役労働者の問題としても大きくクローズアップし、「国民的課題」として、現退一致で取り組まなければならない課題として顕在化しています。

②厚生労働省は、団塊の世代が75歳となる「2025年の地域包括ケアシステムの確立」をめざし、各自治体に取り組みを求めています。地域包括ケアシステムは、介護保険法が定める「要介護状態」となった際に「自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービス」を行うことを目的に、病院（医療）のみに依拠するのではなく、医療と介護を連携させ、在宅での介護を重視したシステムです。だれしも、介護が必要になっても「住み慣れた地域で住み続ける」ことを望んでおり、地域包括ケアシステムの確立は急がれています。

また、府内の介護保険料は、大阪市と高槻市を比較すると1.5倍を超える格差となっており、全体的にも格差が拡大する傾向にあります。また、介護の利用料については、

制度発足時に自己負担率を原則 1 割に設定したのは、介護が医療に比して長期にわたることを基本認識したもので、政府がこれまでに高所得者に対して 2 割負担を導入し、その検証もないまま 3 割負担も導入したことによりサービスを切り詰めざるを得ない利用者の発生が危惧されます。

③大阪退連は今年度も各自治体に、「介護・認知症問題」を中心に要求書提出し、文書回答を求めるとともに、大阪府及び 10 市で直接に意見交換を行ってきました。昨年度に引き続き、今年度もすべての自治体から回答がありました。このことは、「退職者連合の要求に対して一定の理解が得られた」と言えるとともに、より重要なことは「介護問題が一層深刻化している」ことの表れであり、このことに注目しなければなりません。

(4) 政治状況

第 19 回統一地方選挙は、前半戦では連合大阪の推薦候補 23 名の内 9 名の当選、大阪府知事選挙では小西候補 125 万票に対して吉村候補 226 万票、大阪市長選挙では柳本候補 47 万票に対して松井候補 66 万票と結果は惨敗でした。同じく後半戦では、推薦候補 40 名の内 37 名の当選と善戦したが、八尾の首長選挙での敗北は厳しい結果となりました。

現役組織である連合大阪の統一自治体選挙の総括は、連合大阪の方針・運営・政治スタンス・支持政党との連携の在り方などについて、構成組織とのヒアリング・意見交換を経て 6 月 21 日の執行委員会で総括する予定となっています。いずれにしても、大阪においてはこれまでの延長線上の取り組みに限界があることが明らかになりました。したがって、政党や友誼団体との関係を含めて仕切り直し、戦略・戦術ともにこれから取り組み方向を考えていくこととなります。大阪退連は、この現役の政治方針を受けて、現退一致の方針のもとに結集し、政治活動の前進を図ることとします。

一方で、7 月に実施される第 25 回参議院選挙が間近に迫っています。10 人の組織内比例区候補者の必勝はもとより、連合大阪・連合近畿ブロックの統一候補者の必勝に向けて、現役から提起される政治活動に取り組みます。

(5) おわりに

政策要求についても、政治活動についても、組織の影響力が活動の成否を決定づけます。そのため「組織の強化・拡大」は、私たちがやり遂げねばならない課題です。私たちの活動は、必ずしも目新しい内容にはなりませんが、“地道に粘り強く”取り組みを続けることが極めて重要だと考えています。皆様方のご理解・ご協力をお願いします。

第25回参議院議員選挙必勝に向けた決議（案）

本日、私たちは、「生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！」をメインスローガンに「2019 大阪高齢者集会」を開催した。

少子高齢化が進む中、高齢者の暮らしは日々厳しさを増している。退職者、高齢者の生活は「年金、医療、介護」制度などにより大きく左右される。社会保障制度の安定は、高齢者、退職者にとって必須の条件であり、政治が果たすべき役割はきわめて大きいことを改めて認識しなければならない。私たち一人ひとりが、主体的に「草の根」からの取り組みを進めなければならない。

第25回参議院選挙は、人口減少・少子高齢化が急速に進む中、財政健全化と持続可能な社会保障の構築、雇用環境の整備など、国民の生活に直結する政策課題への対応を国民が選択し得る重要な選挙である。

安倍政権は、一強体制による慢心を背景に、閣僚が国民をないがしろにした言動を繰り返し、政治不信を広げている。また、強権的な国会運営や忖度（そんたく）政治は、政治と官僚の劣化を招き、公文書が行政によって隠ぺい・改ざんされるなど、日本の民主主義の根幹をも揺るがしている。

私たちは、こうした安倍一強のおごり高ぶった政治に怒りの声をあげ、蔓延する政治不信を払拭し、眞の民主主義を取り戻さなければならない。そのためにも、国民から信頼される野党の再生で政権交代が可能な政治体制を構築することが急務である。

第25回参議院選挙に、連合および連合大阪は、全国比例代表の組織内予定候補者10人と大阪選挙区で闘う「かめいし倫子候補」と「にしゃんた候補」、そして近畿各府県の予定候補者の必勝を期して闘うこととしている。選挙は既に終盤にきており、大阪退職者連合は、現退一致で推薦候補者全員の必勝を期して、全力で闘う。

以上決議する

2019年6月4日

2019 大阪高齢者集会

（案）2019 大阪高齢者集会宣言（案）

本日、大阪退職者連合は、500 人の仲間が結集し「生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！」のスローガンのもと「2019 大阪高齢者集会」を開催し、現退一致で取り組みを強めていくことを確認しました。

今、日本の社会は、超少子高齢化・人口減少社会に突入し、経済・社会の大きな変革とうねりの中で、格差の拡大や生活不安が加速しています。2019 年度政府予算においては「経済財政運営と改革の基本方針 2018」に定められた「新経済・財政再生計画」における基盤強化期間の初年度で、社会保障関係費の自然増が 6,000 億円と見込まれる中、実勢価格の動向を反映した薬価改定や、これまでに決定した社会保障制度改革の実施等の様々な歳出抑制の結果、社会保障関係費の実質的な伸びは対前年度プラス 4,774 億円となり、同計画における社会保障関係費の実質的な伸びを「高齢化による增加分である 4,800 億円程度におさめる」という抑制が実施されました。

一方、「人手不足」と言われる現役世代においても、不安定雇用の非正規労働者は 4 割近くに達し、「ワーキングプア」と呼ばれる年収 200 万円以下の非正規労働も 1000 万人を超えていました。また、4 月から始まった外国人労働者の受け入れの課題もあります。

こうした情勢の下で、現役労働者、退職者が連携を強化し、生き生きと安心して暮らせる社会の構築に向けた取り組みを強めていくことが重要となっています。そのため、連合大阪が運動を進めている「クラシノソコアゲ応援団！RENGO キャンペーン第 4 弹」と連携し、活動を強めていきます。

また大阪では、大阪維新の会が仕掛けた脱法まがいの「知事・市長の入れ替えダブル選挙」の結果を受けて、「大阪市の廃止・分割」を狙う大阪都構想の法定協議会の議論が加速されます。大阪退連は、再度の住民投票に反対するとともに、実施された際は否決をめざし取り組みを強めます。

大阪退連は、運動の重点を「介護保険制度・高齢者保健福祉制度の充実」に置き、大阪府各自治体に独自の要求活動を行ってきました。団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には、介護職員不足が 43 万になると言われ、その 10 年後には 79 万人という試算が発表されています。大阪退連は、現状の問題点を解明する中で、介護離職を防ぎ、安心した老後生活を確立するために取り組みを強めてきました。介護問題をめぐる諸課題は、今後とも拡大することは必至であり、日本退職者連合、連合大阪などと連携し活動を一層強化します。

これらの課題を進めるためには、組織の強化、拡大が極めて重要です。日本退職者連合は「300 万会員に向けた組織拡大の取り組み」を訴えています。大阪退連も連合大阪と連携し、既存組織の会員拡大はもとより地域での組織の強化・拡大に努めます。

以上宣言します。

2019 年 6 月 4 日

2019 大阪高齢者集会